

新型コロナウイルスの影響は？ トランプ氏がまさかの感染

ジャーナリスト

泉 洋海

米大統領選まで後1カ月となった10月2日、米国でまさかの異変が起きた。トランプ大統領が新型コロナウイルスに感染したのだ。全米支持率で、民主党の大統領候補ジョー・バイデン元副大統領にリードを許すトランプ氏は、激戦州で支持を訴えて盛り返そうとしていたが、計画変更を迫られそうだ。

オクトーバー・サプライズ

「今夜、大統領夫人と私は新型コロナウイルス検査で陽性とされた。直ちに隔離され、回復に向けたプロセスを始める。私たちは一緒にこれ乗り越える！」

トランプ大統領はこうツイートし、ニュースはすぐさま全世界を駆け巡った。大統領選の前月に選挙結果に大きな影響を与える出来事が起きることを「オクトーバー・サプライズ」と呼ぶ。直前には、同氏の最



マスクを外すトランプ大統領

側近であるヒックス大統領顧問の感染が公表された。米メディアによると、ヒックス氏は、選挙運動でトランプ氏と中西部ミネソタ州を訪問中の9月30日に発症。翌10月1日にトランプ氏はニュージャージー州で資金集めの会合に参加していた。そもそも、トランプ大統領は、新型コロナウイルス感染症を過小評価していた。初期対応の遅れから、米国の感染者は膨れ上がったが、中国

や世界保健機関（WHO）の対応が悪いと訴えた。国内で感染者が世界最大に膨れ上がっても、マスクを着けるのを嫌い、感染症の封じ込めよりも経済再開を急いだ。未知のウイルスに対し「ある日、突然消える」とか「消毒液を直接注射すればよい」などと根拠のない発言で国民を惑わせた。

最近では、テレビ討論で対戦した民主党のバイデン氏を「彼のようなマスクは着けない。見たこともないような大きなマスクで現れるんだ」と揶揄していた。

錯綜する情報

「ここに来る前は気分がすぐれなかったが、今ではだいぶん良くなった。今後数日のことは分からないが、正念場になるだろう」

トランプ大統領は入院している首都近郊のウォルター・リード軍医療

センターから、ツイッターに動画を投稿し、感謝と健在ぶりをアピールした。ただ、米メディアは、トランプ氏が搬送前に発熱し、血中の酸素レベルが低下して酸素吸入を受けていたと報道。メドウズ大統領首席補佐官も「まだ、回復に向けた明確な軌道に乗っていない」と語るなど深刻な状況をうかがわせた。大統領選を控え、楽観的な見通しと深刻な情報が入り交錯し、ホワイトハウスの情報伝達のあり方が問われる事態となった。

結局、トランプ氏は3日間で退院。ホワイトハウスに戻った同氏はマスクを取り、近く選挙戦に戻るとツイートで宣言した。ホワイトハウスでは、メラニア夫人をはじめコンウェイ元大統領顧問、マクナニー大統領報道官らスタッフの感染が次々と分かり、危機管理の甘さを露呈した。大統領選では、同感染症への対



敗北したのは米国民

応が再び争点として浮上しそうだ。

米国民の敗北

選挙戦終盤で反撃を仕掛けたいトランプ氏だが、先に直接対決した討論会後にバイデン氏がリードを広げたとする世論調査結果がまとまった。米紙ウォール・ストリート・ジャーナルは、第1回討論会後にバイデン氏が支持率を伸ばし、リードを14ポイントに広げたと報道した。

同紙とNBCニュースによる電話調査で、大統領選でバイデン氏に投票するとした回答が53パーセントに上り、トランプ氏の39パーセントを



マスク姿のバイデン氏

大きく引き離れた。バイデン氏のリードは前回の8ポイントから14ポイントに拡大したとする。

両者の初の討論会は激しい非難合戦に終始した。トランプ氏はバイデン氏に「(この国を) 社会主義にしようとしている」。バイデン氏がトランプ氏に「みんながあなたを嘘つきだと知っている」というと「君こそ嘘つきだ」。「過激左派」「米国史上最悪の大統領だ」などと泥仕合のようだった。

これを総括したCNNテレビのアンカーは「敗北したのは米国民」と語ったという。ちなみに、米CBSが直後に取った世論調査でも、この討論会でどちらが勝ったかとの問い

に、バイデン氏と答えた人が48パーセント、トランプ氏は41パーセントだった。

全米の平均支持率でもバイデン氏が49・3パーセント、トランプ氏が43・2パーセントとトランプ氏が劣勢に立たされている。それを、フロリダ州やペンシルベニア州などの接戦州で攻勢をかけ、挽回を図る狙いだったが、新型コロナウイルスへの感染で戦略は見直しを迫られそうだ。トランプ氏は選挙戦への復帰を急ぐが、以前のペースで展開できるかどうかは微妙だ。有識者は「今後、トランプ氏が支持を広げる形で選挙戦に勝利するのは難しいのではないかと語る。バイデン氏が失言などよほどの大きなミスを犯さない限り、有利になるとみる。

大統領選月間

最も懸念されているのは、トランプ氏が選挙結果を認めない可能性がある。同感染症対策で郵便投票の準備が進み、特に民主党が推奨している。一方で共和党は直接投票を勧めており、トランプ氏は「郵便投票は不正の温床だ」とあたかも不正が行われ

ているかのような印象を与える発言を繰り返している。このため、選挙当日に郵便投票の集計に時間がかかり、トランプ氏の票が多かった場合、トランプ氏が勝手に勝利宣言をする可能性が指摘されている。

また、トランプ氏は9月に亡くなったルース・ギンズバーク連邦最高裁判所判事の後任に保守派のエイミー・バレット氏を指名した。共和党は承認を急ぐが、民主党は延期すべきだと反発する。バレット氏が承認されると最高裁判事は9人のうち保守派が6人を占める。トランプ氏は選挙結果で敗北してもこれを認めず、法廷闘争に持ち込むつもりで判事の任命を急いでいるふしがある。

大統領選は通常は当日に結果が出るそうだが、1週間どころか1カ月かかる懸念する声も上がる。大統領選の結果を受け入れるかを問われ明確に答えなかったというトランプ氏。これまで大統領として品位をおとしめる数々の言動があったが、選挙結果を受け入れないとなると、民主主義の象徴である大統領選さえもともに遂行できないとして、米国の威信は地に落ちるだろう。